

藤 時屋は城下町の町家として寛政12年(1800年)に建てられ、時代が変わるごとに米穀商や印刷所となり、現在はいわむらのゲストハウス、町家民宿として生まれ変わりました。建物は木造2階建、延べ約210平方メートルあり、旧商家らしく玄関奥の天井には太い梁(はり)が通り、吹き抜けの空間となっております。

敷地内には離れや蔵もあり、庭には安土桃山時代に造られた用水「天正疎水」が流れています。

宿 は床の間付8畳2間の座敷間、疎水の水音が心地よい離れ和室、虫籠窓から通りが見える隠れ家のような二階部屋をご用意しております。

土 間には長さ1.7m、昭和初期製の振り子の柱大時計が悠々と時を刻む。疎水の水音を楽しみながら、ごゆるりとおくつろぎください。今に伝わる城下町の風情を感じていただけたら幸いです。



古い町家を復元し、街並み保全することにより、歴史的な足跡として貴重な文化遺産を次世代につなげていけたら…との思いで、町家民宿として開放いたしました。



風情ある町宿

どこか懐かしい町並み

